

2016年12月

不登校の研究 ～望ましい教育の在り方について～

情報学部 経営情報学科 新井ゼミ
B3P21075 新堀加奈

【卒業論文概要】

現在、日本の不登校児童数は増加傾向にある。一時期減少傾向にあったはずであったが、またここ数年で不登校児童数は増加していつている。なぜ不登校児童数は減少しないのか。まずは「不登校」というものがどういうものなのか、その特徴や不登校になってしまった背景・原因など基本的なことを理解する。

なぜここまで不登校問題が取り上げられるようになってしまったのか。日本における不登校問題は、社会の中でどういう経緯をたどって今日ここにあるのか。過去と現在の不登校数の変化を比較しながら考察する。戦後、日本は新教育となり、六、三制の義務教育が敷かれる。義務教育になったからといって皆が登校したわけではなく、長期欠席者はたくさんいた。戦後ということもあり、貧しい、親がいない、親戚に預けられているなどの事情から学校どころではない状況だった。しかし、こういった理由での長期欠席は、世の中が落ち着くにつれ減少する。そして徐々に心理的に登校できない子どもが増えていき、今日の不登校問題へと繋がっていく。不登校問題が取り上げられるに従い、不登校児童への支援の現状も問題となってくる。現在の日本では、不登校児童数の増加とともに、不登校支援の場も増えている。本論文では、学校復帰を支援する教育支援センター(適応指導教室)、学校以外の学びの場であるフリースクールについて論じる。

最後に、我が子・生徒がそもそも不登校になってしまわないために、不登校になってしまったら、どのような教育をすればよいのか家庭教育・学校教育の二つの観点から考察する。世間では、家庭での教育が悪いから子どもは学校へ行かなくなってしまうと思われがちだ。多少は家庭教育が原因ということもあるだろう。しかし、直接不登校にしてしまう原因を作るのは「学校」という場なのである。そうならないための学校教育の在り方、そうなってしまった後の家庭教育の在り方、家庭での対応を論じていく。